

「わたしの平和宣言」

- すべての人の生命を大切にします
- どんな暴力も許しません
- 思いやりの心を持ち、助け合います
- 相手の立場に立って考えます
- かけがえのない地球環境を守ります
- みんなで力を合わせます

(2000年「平和の文化国際年」にユネスコが決定)



広島ユネスコ協会は、一九七三（昭和四十八）年に結成、こゝとして三十五周年を迎える。戦



広島ユネスコ協会会長 北川 建次

後の草創期の民間ユネスコ運動を経て、新たな組織として誕生してから三十五年、十年一昔、苦節十年というが、よく続いたものと、感慨ひとしおである。これには、関係者の並々ならぬご努力があった由縁のものがある。改めて各位に対して深甚の謝意を表したい。

ヒロシマの精神を世界へ

これからユネスコ

協会結成三十五周年に寄せて

先日、宇野豪先生の「草創期の広島ユネスコ運動」なる苦心の著作を拝見したが、私たちの先輩諸兄の大変な努力、奮闘ぶりを初めてくわしく知り、深く敬意を払うものである。

日本が国連機関のユネスコに入れていただいで早や六十年を経過した。この間に世界の情勢は大きく変わり、それにつれてユネスコも変化した。しかし、そこに流れる底流は一貫しており、それは「人の心の中に平和の砦を築く」という不変のスローガン、ユネスコ精神であり、その重要性はますます増大している。

戦後のレジウムであった米ソ対立の冷戦が解消したと思ったら、二十一世紀は新たな戦乱、動乱の絶え間がない。更に、核兵器の脅威はますます大きくなり、まさにユネスコの一贯した精神は不変なものとして重要性が高まっている。

最近のユネスコでは、ESD、つまり、持続可能な開発・発展のための教育が最重要課題となっている。環境問題をはじめ、テロ、紛争の解決など解決すべき課題は大きい。このESDの究極はやはり核兵器のない、核廃絶を求めた世界の構築である。

そうした意味で、ヒロシマ、ナガサキの重要性はますます大

切なものとなっている。日本はヒロシマ・ナガサキの精神を生かした運動を進めて行く必要、義務があり、ヒロシマは常にその「さきがけ」とならなければならない。

今年（G8（エイト）の下院議長会議が広島市で開催される予定。まさに時宜を得たものであり、ヒロシマ・ナガサキの精神が世界の先進諸国に再認識されることを念願してやまない。

そうした中で、ヒロシマユネスコの任務・課題はさらに重要性を増していくことになる。広島ユネスコ協会は、三十五周年をひとつの跳躍台として、ノーマ・ヒロシマズ、ヒロシマの精神を世界へ、ヒロシマからワールドデイシマへの飛躍が課題であり、これは、日本ユネスコの等しく広島へ求めるところのものである。また、全世界の人々が、国々が求める課題でもある。

（写真＝広島市平和記念公園内「風の中の母子像」）

2008年度広島ユネスコ協会 総会のご案内

と き／2008年5月24日（土）
午後3時40分～5時半

ところ／広島国際学院大学
立町キャンパス
（中区基町13-7 広島朝日ビル1F）

第十回新春フエスタ盛大に

奨励賞表彰や二胡演奏など

国際理解、協力、交流などの活動を顕彰する広島ユネスコ活動奨励賞（主催・広島ユネスコ協会、後援・広島市教育委員会）の表彰式と新春コンサートを組み合わせた恒例の「ユネスコ新春フエスタ2008」は、十日目を迎えて、去る一月二十六日、鯉城会館（広島県民文化センター16階）で開かれました。

広島経済大学中山修一教授が受賞団体それぞれの活動評価を交えながら講評。そして北川建次会長から賞状と記念のブロンズ楯が次の学校、団体に贈られました。

学校部門は五校。広島市立畑賀小学校は、地域の外国籍の保護者、児童との交流を通じての多文化共生の活動に。同市立翠町中学校は、永年にわたり平和学習や国際理解教育の推進に多大な実績を上げたことに。広島大学附属東雲中学校は、米国の姉妹校との提携を通じて異文化

理解、国際交流の輪を広げた活動に。広島県立井口高等学校は、オーストラリアや米国の姉妹校との提携を通して相互理解などの活動に。広島文教女子大学附属高等学校は、カナダ、ニュージーランドへの海外研修旅行を通して異文化体験学習を継続、国際交流に取り組んでいることに対して。

社会部門は五団体。おひさまネットは、公民館活動を通じて集まった女性仲間のボランティアグループで、ケニア共和国ナイロビの養護施設への財政的支援活動に。佐東にほんご教室は、地域に住む十カ国を超える外国人のために日本語教室を開設、日本語の指導を通しての国際交流活動に。日本ガラパゴス研究

会は、ユネスコ世界自然遺産登録第一号の南太平洋上のガラパゴス諸島の自然環境調査と保全のための啓発、教育活動に。広島ジュビター少年少女合唱団は設立以来四十年余り、世界の国々との交歓演奏会などを通しての文化交流、国際理解活動に。BONDHUは、バングラデシユの幼稚園への支援を続け、現地にBONDHU校を開設するなどの教育支援活動に對して。

表彰式の最後に受賞団体の代表が、それぞれ活動内容を発表しました。

第二部は、広島在住の二胡奏者、趙榮春さんによる「新春コンサート」。趙さんは、中国吉林省出身。芸術学院で二胡を学

び米国へ留学、精力的な演奏活動のあと、二〇〇五年来日、広島に定住して二胡教室を主宰しながら活動をしている音楽家です。

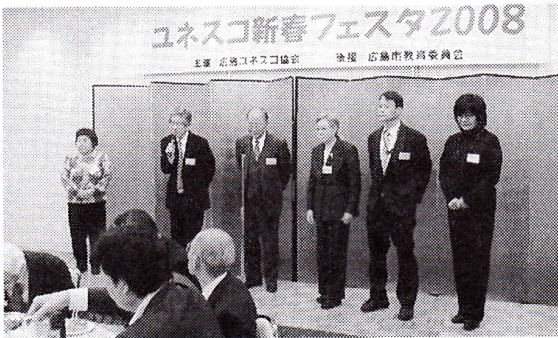
ユーモアを交えた流暢な日本語で笑いを誘いながらの二胡演奏は「夜来香」から「千の風になつて」まで、なじみの曲など七曲を演奏、二胡独特の音色が会場に響きわたりました。趙さんの出演を新聞などで知った二胡ファンの市民も大勢押しかけ、満席の盛況でした。

表彰式、コンサートに続くパーティーでは、受賞団体が入れ替わりステージに立って、メンバーの紹介や活動余話などのスピーチをし、和やかな雰囲気

のなかでユネスコ会員との交歓、交流が続き盛り上がりました。今年も、年の始めにふさわしい「ユネスコ新春フエスタ」となりました。

（常任理事・井尾義信）

（写真II上から）
 ・奨励賞学校部門（翠町中学校）
 ・社会部門（広島ジュビター少年少女合唱団）の表彰
 ・趙榮春さんの二胡演奏
 ・パーティーでの日本ガラパゴス研究会の活動余話披露



杉並ユ青年部スタディツアー 10周年記念の集いヒロシマで

杉並ユネスコ協会が一九九九年から毎年、青年部の高校生、大学生を広島スタディ・ツアーへ送り出して今年で十年目を迎えました。これまで百五十人の青年を受け入れてきました。

世界遺産に学ぶ、計三泊四日の定番コースを積み重ねて十年。その十年の節目に当たる今年三月二十八日、十周年記念の集いが広島平和記念資料館で開かれました。

毎年、春休みの三月下旬、二日間の広島滞在で原爆資料館の見学と平和公園内の碑巡り、そして高橋昭博副会長の被爆体験の講話に耳を傾け、本川小学校、袋町小学校の被爆の現場などを訪ねた後（毎夜、宿で復習の意見交換をし）、翌日は江田島術科学校教育館見学を経て宮島の

まず、広島ユ協・北川建次会長の挨拶に次いで、第一回から青年を引率してこられた杉並ユ協の板倉徳枝副会長挨拶の後、杉並区山田安区長からのメッセージが同行の区長夫人・山田祐子さんの代読で紹介されました。



会は、「杉並は何を学び、広島はどう応えてきたか。今後の課題は」を巡って進行され、まず、杉並ユ協から十年間の訪問をまとめた報告書をもとに数名の青年が登壇し、印象に残った事例を述べ、スクリーンに記録のスクリーン写真を映写して足跡を振り返りながら発表しました。



また、被爆体験の証言や資料館の展示資料から受けた衝撃などについての体験と意見がそれぞれ熱く語られました。さらに、被爆の惨状と現在の町並みを重

ね合わせた広島の歩みに思いを馳せる一方で、世界各地で続く宗教・民族間の紛争・戦争行為に触れて「広島が有する平和観」「広島市の平和発信の力」への指摘と疑問、また核問題に関して「核の平和利用はあり得ないか」「そもそも平和とは」などの意見が相次ぎました。

これを受けた会の後半では、広島ユ協・井尾義信常任理事の司会で、パネラーの橋光生さん（広島ピースボランティア）広島平和文化センター所属。原爆資料館・碑巡りの案内人、広島大附高教諭・藤原隆範さん、杉並ユ協板倉さんから杉並の青年の主張に対して意見が出され、広島の二人のパネラーからは被爆地・被爆者に立脚した視点の見解が述べられました。

会場からは広島大附高生徒、広島工大附高の生徒・教師からも「被爆の実相は過去のみを語るものではない。人類の未来に警告を発するものだ」などの発言が相次ぎました。十年間一度も欠かさず杉並の青年に講話を担当してきた高橋昭博・広島ユ協副会長から「杉並のみならずの平和への思いは、『継続は力なり』によって養われたもので、十年間の努力に敬服します」の発言があり、引率者二名、青年

二十一名からなる杉並のみさんに会場から盛んな拍手が送られました。

会の終わりに秋葉忠利・広島市長が登壇。杉並へのメッセージとして「原水禁運動が始まったのは杉並で、ビキニ水爆実験による第五福龍丸被爆に端を発する」「広島市は現在二〇二〇年までの核兵器廃絶を目指して世界平和都市連帯の組織を現在構築中」と述べられました。その後、市長は杉並区長への記念品（原爆ドームのクリスタル・レプリカ）を区長夫人・山田祐子さんに贈呈されました。

当日、会場には杉並の記念写真、感想文集が展示され、参加者は、広島大附高と広島工大附高の生徒・教師、広島ピースボランティア、広島ユ協会員、市民など七十五名で、会の模様はNHK、中国新聞、読売新聞を通じて報道されました。

（常任理事・亀井 章）

杉並ユから届いた 報告書から

〈板倉副会長〉

十年間継続してきたこのツアーが生み出したものは間違

いなく参加青年たちへの大きな財産になっています。このツアーに参加することによって生きた方の軌道修正ができた青年が何人かいます。そうだから青年たちは自発的に参加してきました。継続を支えてくださった広島ユ協のご協力に外なりません。

〈河合章太さん〉

未来はこれから生きる人間によって切り開くことが可能だが過去は訂正できるものではない。ヒロシマは「未来を創造する現代人への遺書」ではないか。ヒロシマを語ることは核を見直すこと、将来を考えること、平和を探すこと。だから、僕ら若者は広島を学ぶし、広島は「遺言」を伝える義務がある。

〈伊東成美さん〉

広島大附高の子たちの意見を聞く機会があり、もつと広島の子たちと広島を見つめなおし、ディスカッションしたい。広島焼きも食べたい。この旅はいろいろ濃かったし、自分が成長できた気がします。来てよかった。来年も訪れたい。

心に残った言葉は、「平和とアクションである」

原爆ドーム世界遺産 登録10周年記念巡回展終了

原爆ドームが世界遺産に登録されて二〇〇六年十二月七日で十年が経過しました。

これを記念して、当時広島平和文化センター国際部国際交流・協力課職員であった西山松平さんが収集・保存されていた記録写真・報道記事・関連資料をパネルに整理されたものなどを提供いただき原爆ドームの世界遺産登録までの歩みを伝える巡回展を開催しました。

二〇〇六年十一月十九日広島国際会議場での「国際交流・協力の日」の開催を皮切りに、広島市民館及び広島市まちづくり市民交流プラザなどで、二〇〇八年一月二十八日まで約一年二ヵ月余をかけて二十八か所の展示会を終えました。

その内容の主なもの、○原爆ドームの歴史○原爆ドーム保存金運動○広島市が原爆ドーム永久保存の決定○保存工事○世界遺産化を求める動き○世界遺産化をすすめる会の結成・国会請願署名運動(街頭など)○県内自治体で意見書採択○請願署名百万名突破!遺産化実現県民集会○請願者名簿百六十四万

名を国会提出○国会請願行動一総理大臣をはじめ衆・参両院議長など○請願採択○衆・参文教

委員原爆ドーム視察○国文化財史跡に指定○日本政府世界遺産委員会へ推薦○メキシコで開催された第二十回世界遺産委員会で登録決定○世界遺産リストに

世界の古地図に湧いた ユネスコサロン

「世界古地図に登場する石見銀山」のタイトルで、第三百十三回ユネスコサロンは三月十五日広島市まちづくり市民交流プラザで開かれました。

講師は、呉市在住の古地図研究家・中島淑夫さん。中島さんはかつて広島市の広報課長をつとめた方で、古田常任理事とは旧知の間柄。

昨年、世界遺産に登録されて一躍脚光を浴び人気のスポットとなった石見銀山の歴史的价值は広く知られるようになりまして、十六世紀のヨーロッパの古地図にその名が登場しているところとあって、興味と期待がふくら

登録○世界遺産化をすすめる会解散—などです。

限られた写真・報道記事・資料の展示ではありましたが、原爆ドームの世界遺産登録までの経緯や様子などを市民のみならずに伝えることができたのではないかと思います。

巡回展開催にあたってご協力をいただいた(財)平和文化センター、(財)広島市ひと・まちネットワークの関係者に厚くお礼を申しあげます。

(事務局長・山本隆信)

みました。

中島さんは、沢山のスライドを使って説明しながら、先ず十六世紀のヨーロッパの古地図に描かれた島国「日本」の姿の変遷を紹介し、その中の一枚、マドリッドの公爵家が所蔵するドウラード地図に石見銀山が「銀山王国」として書き出されていることを示して、石見銀山の世界遺産価値を強調しました。

中島さんが古地図に触れたのは、四十年前も前、古地図収集家・研究家で元呉市長、元参議院議員の松本賢一氏に出会ったことで、松本氏が出版した「南蛮紅毛日本地図集成」をもとにさらに古地図の研究を重ねてこられたとのこと。

中島さんは松本コレクションの古地図を一枚一枚丁寧に熱く

紹介しながら、十六世紀の日本とヨーロッパ諸国との交易の姿を浮き彫りにしていきました。

会場には、一般市民の古地図ファンが大勢つめかけ超満員の盛況となり、終了後も参加者が中島さんと古地図を囲んで歓談が続きました。

(常任理事・井尾義信)

「大邸の日」記念 イベント盛大に開催

去る五月二日から五日間、広島市と韓国大邱市との姉妹都市縁組締結記念のイベントがワーフェスティバル会場で行われました。

姉妹都市提携十一年目になる今年の大邸マダン(広場)は、たくさん韓国家庭料理や韓



国の遊び、大邱市紹介など各コーナーを盛り上げてくれました。中でも、韓国通の度合いを測るクイズ「韓国検定」へのチャレンジコーナーは印象的でした。

また、三日のカーネーションステージでは記念のセレモニーと大邸ファッション&ビューティーファッションショーが行われました。ショーは、大慶(テギョン)大学のモデル科と比治山大学の学生によつてすすめられ、学生とは思えない華やかな雰囲気をももっていました。

さらに、国際会議場では「平和と家族愛」をテーマにしたハングル書道展が開催されました。会場には大勢の入場者が訪れ、大邸市の書道家の皆さんが対応に追われていました。

この大邸との交流イベントを通じて、広島での韓流ブームが一層高まったようです。

(写真は、若者たちで賑う「韓国検定」クイズ)

(常任理事・岡平裕次)

「書き損じはがき」の 回収事業にご協力を

ことしもひきつづき実施いたします。
みなさんのご協力をお願いします。

随想

ユネスコ、思うおぼれ

常任理事 新川 貞之

ヒロシマは、あの悲惨な原爆の体験を世界のいずれの国にも再び体験させてはならない、あの戦争の悲劇を繰り返してはならないと誓い、平和運動に寄与する目的で、一九四九年（昭和二十四年）、広島市に広島ユネスコ協力が発足した。

その発会式は、市内の児童文化会館を会場に開催されたが、国連ユネスコ駐日代表・李博士や日本ユネスコ協力会連盟会長・仁科芳雄博士、文部大臣・森戸辰男氏の講演などがあり、盛大な発会式であったことを思い出す。

そのころの運動は、まだ始まってまもないこともあって、未文化の時代。いろいろな文化講演会や音楽会などの行事は、「ユネスコ」の名義をつけて主催されていた。そのようなこともあって、事務局に若くて美人の佐々木久子（ささきひさこ）女史（東京で雑誌「酒」の編集長などで活躍）が来られた。当時事務局は広島県の社会教育課にあり、社会教育課職員であった私とは、机を並べていたのだが、

彼女が、協力の活動資金の寄付集めなどの事務の手伝いをさせていたことを思い出す。

「ユネスコ活動に関する法律」が公布されたのが、一九五二年（昭和二十七年）であるから、ユネスコ協力は、法律よりも前から活動を展開していたことになるが、それだけに活動はもの珍しいものであった。とくに青少年のために、NHKのFK（JOFK）と協力して「ラジオ・ユネスコ学校」が広島や尾道で合宿のうえで開催され、ユネスコとは何かの理解と実践の輪が拡げられてゆく。

当時、この運動に県、市当局の少なからぬ援助があった。そして広島大学の教官や財界の方がたが積極的な役割を果たし、広島文理科大学学長・長田新（おさだあらた）氏が広島ユネスコ協会会長となり、広島大学学長・森戸辰男（もりとたつお）氏が協力会顧問となられた。このようにすぐれた指導者のもとで活発に活動が展開され、大きな業績をあげたことも懐かしい。

その後、日本独立という国際的・国内的情勢の変貌の中で、ユネスコ運動は消長の波をたどったことはご案内のとおりである。ときどきユネスコに関心をもつ有志の者が流川の音楽喫茶「ムシカ」でユネスコについて語り合いもした。よき時代であった。

時が進み、一九五四年（昭和二十九年）一月、因島市に新しいユネスコ協会が発足し、日立造船などのバックアップがあつて大いなる成果をあげてきたが、そうしたことを踏まえて、一九七五年（昭和五十年）六月には第三十一回日本ユネスコ民間運動全国大会をひき受けることになった。そこで県内のユネスコ団体も立ち上がり、連絡協議会を設立し、その指導的立場であった広島大学名誉教授、広島市立中央図書館長・内海巖（うつみいわお）氏が会長に選ばれた。

この大会に全国からユネスコ会員六百余名、バンングラデシユネスコクラブ、韓国ユネスコ協会代表など外国からも数名が参加した。また、永井道雄文部大臣のあいさつと講演があつたが、まことに盛大な会となり、今から考えてもよくやったものと感慨ひとしおである。

一九八八年（昭和六十三年）十月、十泊十一日の日程で、日中民間ユネスコ交流計画のもとづいて、最初に日本から代表団が訪中したが、私もその代表団の一員として参加した。

この日中民間ユネスコ交流計画は、二期八年間続き両国が相互に代表団を訪問させて大きな成果をあげたが、広島ユネスコ協会からは、隔年に四次訪問まで行った。北京側からも同じ回数だけ隔年に訪問され、交流を深めた。

日本から世界へ一つなげよう平和の心。一をテーマにした民間ユネスコ運動六十周年記念の第六十三回日本ユネスコ運動全国大会が、二〇〇七年（平成十九年）九月、山口市湯田で開催された。広島ユネスコ協会からも北川会長ほか多数参加されたが小生もその一員として参加させていただいた。この大会には中国からも数人参加されていたが、代表団長があの陶西平氏であった。日中交流計画で北京市へ訪問してから二十年余、

訪中団は、北京市が企画された十日間の日程により行動した。大まかには北京市ユネスコクラブへの表敬、北京市第四中学校の訪問の後、万里の長城や明の十三陵見物、そして空路敦煌の莫高窟、鳴砂山から黄河を散策、西安の兵馬俑と蘇州観光をして、上海から帰国した。

それ以来の再会、なつかしさをもって堅い握手と懇親パーティーでの杯をかわしたことは、ユネスコ会員であればこそ体験できたものだ。このよるこびは、何ものにもかえがたい。いつまでも大切に心の中にとどめておきたいと思っている。

あければ枚挙にいとまがないほどユネスコ運動にかかわる思い出はつきないが、また機会をいただいで綴ってみたい。

九条世界会議 ヒロシマ集会開く

「日本国憲法九条は世界から戦争をなくす思想」であるとして、五月五日、幕張・仙台・大阪会場などと同時に九条世界会議ヒロシマ集会（主催／実行委員会、共同代表／浅井基文・広島平和研究所長、平岡敬・前広島市長）がアステールプラザで開かれました。

冒頭、共同代表の平岡敬氏の主催者挨拶の後、ノーベル平和賞受賞者・マイレッド・マゲワイアさん（北アイルランド）が記念講演で、アイルランド武力紛争の非暴力による解決の体験を基に「憲法九条の精神と威力」を強調。続いて行われた四人の意見発表では広島平和文化センター理事長のステイブ・リーパーさんが「日本はアメリカの軍事力の従属から解放されなければならない」、ANTの渡部朋子さんは、五月五日当日に建立五十周年を迎えた原爆の子像に因んで「サダコ」が担う平和実現の役割を引き合いに「九条順守」を主張。この後「被爆地の広島こそ九条順守を発信する責務がある」とするヒロシマ宣言を参加者千百人の拍

手で採択されました。

（常任理事・亀井 章）

宇野常任理事、「草創期のユネスコ運動」を上梓

当協会の宇野常任理事は、このほど「草創期の広島ユネスコ運動」短命に終わった運動の足跡をたどる」と題する書物を上梓されました。

この書物は、一九四七（昭和二十二）年の広島ユネスコ協会の発会ごろからユネスコとのかわりが始まった著者が、体験と新聞報道や公文書などの豊富な資料を駆使してまとめられたものです。

戦後のユネスコ運動の胎動から一九五〇（昭和二十五）年の日本ユネスコ運動第五回全国大会が開催されるまでに盛りあがった広島ユネスコ運動が、その後の数年間、活発な活動の展開をしていきながらも次第に停

滞、ついには自然消滅とさえもいわれる状況に陥るまでの歴史の検証もされている貴重な資料です。

部数に限りはありますが、希望される方は、次のいずれかの方法により事務局へご連絡をお願いします。

△はがき▽〒730-0036 広島市中区袋町六一三六 広島市まちづくり市民交流プラザメルボックス89号気付 広島ユネスコ協会事務局宛
△E・メール▽
hiroshima2007@unesco.or.jp

△ファックス▽082-823-0036

広島ユネスコ協会のホームページ メール・マガジンを「利用ください」

広島ユネスコ協会では、広報活動として、機関紙の発行とともに、ホームページの開設とメール・マガジンの発行をして、適時・適切に情報提供を行うよう努めています。ご利用ください。

△ホームページのアクセス▽
http://www.unesco.jp/hiroshima/

△メール・マガジンの登録▽
メール・マガジンを希望されるかたは、つぎのE・メールで申し込みをお願いします。

hiroshima2007@unesco.or.jp

＜会費納入のお願い＞

広島ユネスコ協会は、皆様の会費を協会活動の重要な財源としています。総会後に納入のご通知を発送いたしますので、ご協力をお願いします。

第134回ユネスコ・サロン

とき／5月24日（土）午後2時～3時半
ところ／広島国際学院大学立町キャンパス（中区基町13-7 広島朝日ビル1F）
テーマ／「広島独立論」以前以後～「国際平和文化都市」を日常性から問いなおす～
講師／文化活動家・東 琢磨さん

日誌

△2007年12月▽

10・17日／ユネスコ活動奨励賞紹介文・表彰文検討会
（交流プラザ、青少年センター）

20日／機関紙第68号発行
20日／ハンゲル講座終了全六回
（青少年センター）

△2008年1月▽
26日／新春フェスタ2008
（ユネスコ活動奨励賞表彰式・二胡演奏会・記念パーティー）二胡奏者 趙 栄春

28日／「原爆ドーム世界遺産登録記念特別展」市内巡回展終了
（鯉城会館）

△2月▽
6日／専門部会長会議（市民交

流プラザ）

9～11日／ユネスコ・ユースセミナー 藤原理事・廣大附属高校生五名

18日／ユネスコサロン講師事前打ち合わせ（立町キャンパス）
20～3・19日／トラベル中国語講座全五回（青少年センター）

△3月▽
15日／第百三十三回ユネスコサロン「世界古地図に登場する石見銀山」古地図研究家中島 淑夫（市民交流プラザ）

15日／理事会（市民交流プラザ）
18日／岡本太郎「明日の神話」（壁画）恒久誘致先東京都渋谷区に決定

25日／「草創期の広島ユネスコ運動」短命に終わった運動の足跡をとどめる 宇野常任理事著 出版

28日／「杉並ユネスコ青年広島訪問十周年記念の集い」
（平和記念資料館）

△4月▽
1日／広島市補助決定通知受領
（二〇〇八年～二〇一〇年）

18日／機関紙記事検討会
（交流プラザ）

23日／教育部会（交流プラザ）
26日／岡本太郎「明日の神話」
広島誘致会総会（解散）

28日／組織部会
（芸備保険センター事務所）